

働き方改革など12編

NIPPOグループ 改善事例発表会

NIPPOは1月27日、東京都内で「第13回NIPPOグループ改善事例発表会」を開いた。グループ会社を含め12支店から集まった73編のうち選考された12

編を発表した。関係部署の部長らが審査し最優秀賞1編、優秀賞2編、審査員特別賞1編を選んだ。

昨年からは技術系部署に加え、人事や総務、営業など事務系部署も含め全部署に対象を拡大している。コロナ禍のため会場参加は80人に制限。支店などと接続したウェブ会議システムで約130人が聴講した。

発表は2部構成で行われ、安全や品質、工程、コスト、働き方改革をテーマに改善事例を報告した。最優秀賞には「フォームドAs装置を使用した中温化技術の適用事例」を選んだ。



吉川芳和社長は「昨年よりもレベルアップしていた。『確かなものづくり』を伝承していく上で発表会は重要だ。各事例が全国に水平展開され、日常業務が一層改善することを期待している」と総括した。写真（NIPPO提供）。

水平展開し業務改善

NIPPO

NIPPOは1月27日、東京都中央区のMEETING SPACE東京八重洲で「第13回NIPPOグループ改善事例発表会」を開いた。新型コロナウイルス感染症防止の観点から会場は入場者数



を制限し、ウェブでも配信した。12支店（グループ会社を含む）の73編から選ばれた安全、品質向上、ICT、カーボンニュートラル、働き方改革、環境、生産性向上、施工技術、営業・事務手続きなど12編が発表された。

開会に当たり、中田尚行常務は「発表された内容を自分の職場に置き換えて実践することにより、企業理念でもある『確かなものづくり』につなげてほしい」とあいさつした。

吉川芳和社長は「目標をもって改善に取り組んだ事例が発表されており、昨年よりもレベルアップしている。『確かなものづくり』を伝承していく、そのための発表会だと考える。発表が全国に水平展開され、日常業務がさらに改善されることを期待する」と総括した。写真。

審査の結果、「フォームドAs装置を使用した中温化技術の適用事例」が最優秀賞となり、そのほか、優秀賞2編、審査員特別賞1編が選ばれた。